

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

学校番号

105

自己評価

<p>学校教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向け、自ら学び自ら考え、生き生きと豊かに表現できる児童生徒を育成 ・自他を尊重し、学校や地域で生き生きと生活できる児童生徒の育成 ・運動に親しみ、心身ともに健康で、明るく元気な児童生徒の育成
<p>評価する領域・分野 教育活動・学習活動</p>	<p>研修（※番号は学校評価のアンケート項目）</p> <p>2：学校は、特色ある教育活動を展開している。</p> <p>13：学校の先生は、専門的知識が豊かで教師としての資質を身に付けている。</p> <p>14：学校の授業内容や進度は、児童生徒の実態に即している。</p> <p>15：学校の先生は、児童生徒の実態を的確にとらえ、授業は一人一人に合った教材・教具の準備がされている。</p> <p>16：学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、児童生徒は意欲的に取り組んでいる。</p> <p>25：学校は、一人一台タブレットの整備にともない、ICTを活用した学習や、非常時のオンライン学習などに積極的に取り組んでいる。</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<p>・それぞれの項目において、全職員の専門性の向上が基盤となると考える。専門性に関する研修を積極的に企画実施することや授業改善を行っていく中で、職員同士で専門性を高めあう必要があると考える。また、児童生徒の実態把握を的確に行うことが適切な指導、さらには保護者への発信へとつながるとかんがえるため、自立活動の内容を理解し、深めることが改善につながると考える。</p>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>〔研究推進〕 適切な自立活動の指導目標、指導内容の設定と実践を繰り返すことでよりよい授業づくりについて考える。</p> <p>〔研修〕 児童生徒の学習の質を高めるために、全職員の専門性と授業力の向上を図る。</p>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・〔研究推進〕各部研究チーフを中心に、小グループを設定する。 ・〔研修〕研修係を設定し、各研修について講師との連携や会場設営等の役割を担う。
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<p>〔研究推進〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年又はグループで対象児を選出し、職員一人一人が意見を出し合うことで、的確な実態把握を行う。 ・対象児についてグループで意見交流する中で、自立活動の指導目標、指導内容を決定し、授業実践を繰り返すことで、よりよい授業づくりについて考える。 <p>〔研修〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内における専門性向上のための全校研修会・各種研修会等の調整と実施 ・研修、書籍等の紹介や専門性向上に資する文献・資料の共有化等の推進
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<p>〔研究推進〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の日を活用し、小グループで話し合いを行うことで、対象児童生徒の実態把握、自立活動の指導目標の立案、授業計画、実施、評価を行い、他グループと交流を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> 記録用紙に記入することで、年間の研究についてまとめる。 <p>【研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修に参加することで、指導力の向上、専門性の向上、授業等への還元ができているか、記録やアンケート等により評価。
取組状況・実践内容等	<p>【研究推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小グループ研究として、対象児童生徒の実態把握、自立活動の指導目標の立案・授業計画、授業研究会・授業改善案の提案、授業研究会と研究のまとめとして計5回話し合いを行った。 小グループごとに、研究授業を年2回実施。 実践交流会として、他学部のグループとの実践のまとめの交流。 研究通信の発行（年7号） 全校研究会により、研究内容の周知と評価を行う予定。 <p>【研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究でも取り組んでいる自立活動について理解を深めるため、講師を招聘して、全校職員研修会を行った。 全校研究授業を行った。 希望者研修会を実施。 初任者等を対象に障がい理解研修を行い、各障がい種への理解を深めた。 専門性の向上につながる書籍を購入したり、研究会、研修会について情報提供を行ったりしたことで、オンライン研修、オンデマンド研修に参加することにつながった。 共通教材について、職員会議や研究通信で情報発信を行った。
評価の視点	評価
① 研究テーマの実現に向け、研究内容や研修を的確な内容で計画・実施することができたか。	A B C D
② 職員のニーズに合わせて、専門性向上に向けた研修を計画・実施することができたか。	A B C D
③ 研究、研修に取り組むことで職員が自身の専門性を高めたり、実際に授業に活かしたりすることができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動の授業改善に関しての研究を計画通り実施することができ、小グループで授業参観や授業研究会を繰り返すことができた。 ○全校職員研修会を実施し、代表者に研究授業を提供していただき、全職員で授業研究会を実施することができた。 ▲必要と思われる研修を希望者研修会として実施していけるとよい。 	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 今必要と考える専門性について検討し、それについて深めていけるよう研究内容を検討する。 今年度職員同士で授業を見合うことができ、授業研究会を実施できたことで、授業について考えを深める機会が増えたと考え、来年度も、授業を参観しあったり、授業について話し合ったりすることができる場を設けたいと考える。

学校関係者評価（令和6年2月27日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部の研究チーフから小グループを設定し、対象児を選出して事例検討を行うなどの取組みは、大変良い。 講師を招聘しての研究事業など、大変ではあるが、継続してほしい。
--